

核兵器の危険は、核兵器でなくせません

# 核兵器禁止条約の調印をもとめよう

アメリカの核政策は世界を不安に



アメリカ・トランプ政権が誕生してから1年が経ちました。「アメリカ・ファースト」をにかけて軍拡路線をすすめる姿勢に、懸念が広がっています。

とりわけ、アメリカのマスコミがスクープした、「核態勢見直し」草案では、前オバマ政権がとねえた「核兵器のない世界」という理念が消えたり、核兵器を使う場面を増やしたり、小型の核兵器開発をめざしたり、科学者たちは、「こうした事態を受けて、「人類滅亡までたどるならあと2分しかない」と警告を發しました。

「核兵器は必要悪ではありません。究極の悪です」と昨年のノベル平和賞授賞式で被爆者のセツコ・サーローさんは演説しました。核保有国は、核に頼る安全保障をやめるべきです。

## 国民世論の力で条約に加わる日本を

残念ながら日本政府は、「北朝鮮の核ミサイル開発などがある以上、アメリカの『核の傘』の強化が必要」として、核兵器禁止条約に反対しています。

しかし、アメリカの核兵器が日本国民の安全を守るなどは幻想にすぎません。逆に核使用の可能性を含む緊張の激化を招くだけです。万一、核兵器が使用されれば、取り返しのできない破滅的な事態となります。

憲法9条に基づいて国民の安全を守ること。被爆国として核兵器禁止条約に参加して、北朝鮮に核の放棄を迫るべきです。

被爆国のわたしたち一人ひとりが声をあげ、核兵器禁止条約にサインする政府を実現しなければなりません。

ぜひ、禁止条約の締結をすべての国にもとめる「ヒバクシャ国際署名」にご協力をお願いします。



(2018.2.6)